

利尻島から流れ流れて 本屋になった

三省堂書店札幌店 係長
工藤志昇 著

四六判並製168頁/定価: 本体1700円+税
ISBN978-4-909281-55-5 C0095 [税込1870円]

書店は、故郷だ。

ゴールの見えない多忙で多様な仕事と、
ふとした拍子に思い起こされる大切な記憶——

最北の風味豊かなエッセイ集。

書店では文庫担当に始まり、文芸書、新書、地図ガイド、人文書、医学書、児童書と様々なジャンルを転々としてきた。発注をし、品出しをし、多くの取引先の方と商談をし、時にはアルバイトさんの面接や研修、フェアやイベントの企画なんかもしている。とにかくやる事が多く、ゴールの見えない仕事だ。休みの日に何もする気にならないのは、その反動なのではないかとさえ思っている。

故郷である利尻島には、年に二回ほど帰省している。今ではもうすっかり「お客様」になってしまった。実家にいると、何もしなくても新鮮な海産物が出てくるし、帰りにはどう考えても一人では消費不可能な量のお土産を持たされる。迷惑な反面嬉しいと思うが、最近では、島を出てからの時間の方が長くなってしまったことに寂しさを覚えている。この先、頻繁に帰ることがなくなっていったら、そこで過ごした記憶も少しずつ消えていってしまうのだろうか。

この数年、そんなことを考えながら家と職場を往復するうちに、自分の中にある変化があった。来店する家族やカップルの会話が聞こえた時。首や腰の痛みに耐えながら品出しをしている時。面接や商談で人と話している時。入荷してきた新刊に目を通した時。仕事帰りに何気なく夜空を見上げた時。別にどうってことない瞬間に、ふと故郷の記憶が頭に浮かんでくるのである。(「はじめに」より)



イラスト…イマイカツミ

いいな～
現役の故郷…
ウニ…



子供の頃に過ごした島の風景と、その時の涙や笑いが連綿と描かれていながら、決してセンチメンタルには走らない。その気になれば、ノスタルジーを砂糖で煮詰めたような話に仕上がりそうなエピソードも、皆すっかりした輪郭で切り取られているのだ。その距離感がいい。近すぎず、かといって遠すぎない絶妙な視点が、やがて島で生きる一人の少年の姿を映し出していく。……………
(「幻の山——〈解説〉利尻島から流れ流れて本屋になった」北大路公子より)

工藤志昇 (くどう・しのぶ)
1988年、北海道利尻富士町生まれ。中学卒業後、札幌の高校へ進学。金沢大学文学部卒業後、研究者を志すも挫折して札幌へ戻り、三省堂書店で働き始める。文芸・文庫担当、医書担当、人文書担当を経て、現在、児童書・新書担当。

* 本書は地方小扱いですので一部の書店を除き新刊配本はありません。必ず事前のご予約(ご注文)をお願いします。

ご注文は下記にご記入の上→寿郎社 FAX011-708-8566

注文票

	●発行 寿郎社	●発注日 月 日	●備考
	●書店名	●注文数 冊	●著者名 工藤志昇
●御担当者名		●書名 利尻島から流れ流れて本屋になった	●ISBN 978-4-909281-55-5 C0095
		●定価 本体1700円+税	